

「ヒメサザンカ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日、小石川植物園に行ってきた。小石川植物園は、公共の場ではあるが入場料をとるので、誰もかれもが入場して混みあうことはない。都心にあつて三密はまず考えられず、安全に自然観察ができる。



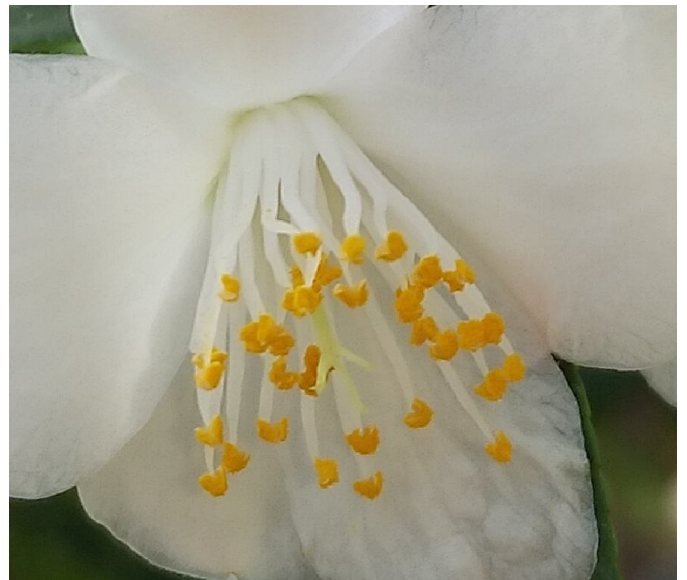
冬は特に温室が有難い。外は寒風でも、温室の内部は常に20℃以上で、しかも風も吹いていない。内部には研究用の鉢植え植物---いわば「生きている標本」が多数展示されている。中には小笠原諸島や琉球列島に多産、またはその固有種もあり、誠に興味深い。



中でも「ヒメサザンカ」という種類だ。すでに花をつけている。**ヒメサザンカ *Camellia lutchuensis*** は、ツバキ科の常緑樹で、琉球列島の固有種である。「ヒメ」を冠するのは、花が小ぶりなのが理由で、野生の樹高は10メートルにもなるという。



ヒメサザンカの最大の特徴は、その強い「芳香」である。展示してある鉢植えにも、わざわざ「よい香りがします」と掲示してある。



私はマスクをしたまま「花と鼻を」近づけてみた。何とも言えない、非常に甘い香りがする。ヒヤシンスとキンモクセイの香りが混ざったような、非常に強い芳香だ。開花した花はもちろん、つぼみもかすかに香っている。「安息香酸メチル」「2-フェニルエタノール」

などが主な香り成分だという。

ツバキやサザンカの仲間は、非常に品種が多い、このヒメサザンカも、「香りの強い品種」の親種として使われる。実際に「姫の香」「春風」などの品種が、人工的につくられたという。

